

第66回 全国溶接技術競技会 表彰式

2022年4月に三重県で開催された第66回全国溶接技術競技会の表彰式が、2022年8月30日(火)に東京ガーデンパレスで行われました。

各都道府県を代表する112名の参加選手が被覆アーク溶接、炭酸ガスアーク溶接の2種目で『日本一の溶接士』の称号を競う本競技会は、溶接技術の向上と溶接技能の振興を図り、溶接の重要性を広く啓発するという趣旨のもと、毎年開催されています。

本競技会には、当社から福岡県代表として八幡支社の井上 裕貴さんと小林 和樹さん、三重県代表として四日市事業所から世古 智佳良さんが被覆アーク溶接の部に出場し、井上さんが特別優秀賞(2位)、小林さんが優秀賞(3位)を受賞しました。

なお、井上さん、小林さん両名は2022年2月に開催された福岡県大会の結果、第67回全国溶接技術競技会にも出場が決定しています。*



表彰式での小林さん(左)と井上さん(右)

<全国溶接技術競技会 入賞者に聞く>

表彰式を終えた井上さん、小林さんに快挙を達成した今の気持ち、間近に迫った第67回全国大会への意気込み等を聞いてみました。

―成績を聞いた時の感想を聞かせてください。

小林 最初聞いた時は「本当に？」と疑いましたが、成績表を見て「本当に3位だ」と実感が湧きました。しかし、2位が後輩である井上さんだったので悔しさもありました。

井上 最初聞いた時はそんな順位は想像していなかったのでびっくりしました。ただ、点数としてはもう少し取れていたのではないか、やれることがあったのではないかと思います。(競技結果は800点満点で採点され、井上さんが778点、小林さんが776点、優勝者が779点でした)

―大会当日の心境はどのような感じでしたか。

小林 二人とも特に緊張はしていなかったと思います。和気あいあいとリラックスした状態で挑めました。

井上 県大会の方が、結果が次の全国大会に繋がるので緊張しました。全国大会は、「やれば後は結果を待つのみ」といった心境で気負いなくできました。

―競技中、競技直後はどうでしたか。

小林 「大きなミスはしなくて済んだかな」というのが正直なところでした。

井上 私もそんな感じです。どうしても練習の時とは環境、状況が違うので練習通りにはいきませんが、結構冷静に微調整しながら進められたと思います。



インタビューを受ける二人

ーどのくらい練習しましたか。

小林 2週間ぐらいです。溶接した板の枚数はちょっと覚えていません。

井上 今大会から競技課題が新しくなったので、いろいろとやり方を考えながら練習して枚数が増えました。多くの人と相談し、もちろん小林さんとも情報交換しながら練習を進めました。

※大会では薄板（4.5mmt）を立向上進で、中板（9.0mmt）を横向で溶接します。（次ページ写真参照）

ー本番での感触はどうでしたか。

小林 これまで本番で「上手くいった」と思ったことはありません（笑）。やはり練習の方がよくできたといつも思います。今回に関しては薄板の練習をもっとやっておけばよかったと思いました。普段仕事でやる溶接とは違う特殊なやり方での溶接となるので、身体が覚えるまでやりこまないと、本番ではできないなと改めて感じました。

井上 私は、薄板は練習と比較してもまあまあ良くできたと感じたので、そこが成績に反映されたのかな、と思います。ただ、練習した板はレントゲン撮影で溶接部の出来を確認していますが、切断して断面の確認や曲げ試験をやっていたら中身の濃い練習ができて、もっと自信をもって本番に臨めたかもしれません。

ーもうすぐ第67回の全国大会があります。意気込みをお願いします。

小林 前回2位と3位でしたので、次はどちらかが日本一を取るぞと頑張っています。ただし気負わずに平常心で、といったところです。

井上 そうですね。平常心で頑張りたいと思います。

ー会社や上司にお願いしたいことはありますか。

小林 井上さんとも話したのですが、もっと多くの当社の溶接士が、競技会へ参加できるようにしてほしいです。競技会やトレーニングを通して他の支社、事業所の溶接士と交流し、刺激し合いながらやれたらいいなと思います。特に若い溶接士は、競技会に参加することで自分のレベルがはっきり分かるし、自身の技量を上げるチャンスでもあります。仕事が忙しい時期は参加が難しいのは分かりますが、会社として参加への後押しをお願いしたいです。

ー最後に後輩たちにメッセージをお願いします。

小林 競技会は、今の自分のやり方、考え方でどこまでできるかがはっきりと分かる場所です。やってみないと分からない「壁」にぶつかることもありますし、それを乗り越えるために挑戦して成長できる場でもあります。競技会に興味を持って積極的に参加してもらいたいです。決して損はしないと思います。

井上 当社にはトレーニングできる施設があって、たくさんの競技会を経験した先輩もいる恵まれた環境です。どの会社でもできることではないので、環境を生かして積極的に参加してほしいです。

ー本日はありがとうございました。全国大会頑張ってください。

小林、井上 ありがとうございました。

（2022.9.20 TAKADA研修センターにて）

＜インタビューを終えて＞

今回のインタビューでは、二人にとって競技会に出場することが自身の技能を更に磨くための大きなモチベーションとなっていることを改めて感じ、競技会へ出場する意義を再確認しました。若い溶接士の溶接競技会への参加は企画開発部としましても推進しているのですが、各都道府県の競技会開催時期が定修工事の時期と合致することが多く出場が難しいのが現状です。しかし、出場によって得るものは大きいと考えており今後も出場を推進していきます。



薄板の課題



薄板溶接の練習



中板の課題



中板溶接の練習

競技課題と練習状況

*第67回全国溶接技術競技会の被覆アーク溶接の部において、小林さんが最優秀賞、井上さんが優秀賞を受賞しました。

詳細については別途、掲載予定です。